

水稻慣行収穫法の地域性とその成立要因に関する研究（福岡県・要旨）

立野，喜代太
九州大学農学部

古賀，茂男
九州大学農学部

<https://doi.org/10.15017/14124>

出版情報：九州大学農学部農場研究資料. 4, pp.45-52, 1977-06. University Farm, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

(2) 収穫法の特徴：1) 地干しによる予備乾燥が行なわれること。乾田地帯で九州全般にわたって行なわれるもので、土地の乾きがあまり良くないところでは、刈り始め、または最後の株を高刈り（約10cm程度）にして、その上に刈取った稲の根本をのせ、通気を良くして、わらや籾の乾燥を促している。2) 野積みによる予乾や本乾燥（長期）が行なわれること。野積みは地域の風土や歴史的な条件を背景にして色々なやり方がある。①丸小積（としゃくとも言う）。②十字小積（佐賀地方では四方小積という）。また、これの変型で三方小積、八方小積など。③舟小積（佐世保市外佐々町、鹿児島の一部にみられる）。④10把、12把、および20把小積など（大束）。⑤山型または台型小積（主に小束）。⑥円形立て、その他がある。3) 大束結束には「むすで」が用いられる。地干しした稲は150株程度を1まとめにして結束する。地方によって「いいぜ」（大分）、「いなで」（宮崎）とも呼ばれる。4) 早期栽培地帯では特種な収穫法がある。手刈り、結束後、ただちに脱穀し、乾燥したのち収納する方法（7型）や、手刈り後、12株程度の小束に結束して、畦畔などで地干した後、脱穀、乾燥、収納する方法（5型：沖永良部、大島地域）などがみられる。

水稲慣行収穫法の地域性とその成立要因 に関する研究（福岡県・要旨）

立野喜代太

百賀茂男

1. 調査地帯区分

福岡県を9地帯に分けて調査をまとめた。

(1)北九州：鉾害田や湿田が多く生産環境に恵まれない。(2)京築：耕土が浅く、常習干ばつ地帯が多い。海岸地帯は湿田が多い。(3)筑豊：鉾害田や農業用水の汚濁などで生産環境は悪い。(4)宗像：筑後につぐ高収地帯。(5)福岡：海岸地帯の一部は砂土で、秋落、潮害をうけやすい。(6)糸島：砂壤土、砂土で生産力が低い。(7)筑後北部：筑後川その他の中小河川流域の穀倉地帯である。(8)筑後西部：クリーク地帯で高い生産力がある。(9)筑後東部：穀倉地帯である。

2. 調査の結果

(1) 刈取期：北九州、筑豊、宗像など北部地域では10月中、下旬を中心に11月上旬まで、他の京築、福岡、糸島や南部の筑後地帯では11月上、中旬が最も多い。

(2) 鎌の形状：県北部はもっぱらうす鎌が、また県南ではこの鎌がもっぱら使われている。

(3) 手刈り方法：5株を右から左へと刈り取り前進する方法が広くとられている。筑豊、福岡および筑後の山間部では前後2株を右から左へ3～4条刈取って前進する。従って1回当りの刈株数は6～8株となる。筑後北部と京築地帯の一部では4株刈もある。刈倒した稲は5株前後をまとめて置くのが一般的であるが、架干し地帯では10～15株をまとめて置き結束に手間がかからない様にする。地干し地帯でも2握、または3握りを根本を交差して置く場合がある。刈倒した稲は1)左、2)右、3)うしろ、4)穂先を向い合せる置き方がある。京築、糸島の全部、および宗像、筑後地帯の大部分、その他地帯の一部では左置きが、北九州、筑豊の大部分と、宗像、筑後の一部で右置きが、筑後の山門部でうしろ置きが、また、福岡の大部分と筑後北部の大部分では穂を向い合せる置き方が見られる。これは過去において長稈品種を栽培したため、結束などの作業上の都合を考慮した作業慣行が現在でもとられているためである。

(4) 刈株の高さ：架干し地帯をのぞいて、水田の乾湿状態を間接的に知ることが出来る。県南の地域はほとんど全面低刈りであるが、宗像、糸島の大部分、筑豊、北九州、京築、福岡の一部では最後の株を高刈りにする。一方、最初の株を高刈りにするのは、刈取り稲を右置きにする地域にみられ、北九州、筑豊の大部分、および宗像の一部で行なわれている。これは高刈りにした稲株に刈取った稲の根本をのせて、地干しの際の通気を良くするためにとられた方法で、わらおよび籾の乾燥が早い。高刈した株は畜力耕起の際の目じるしともなった。全面高刈りはほとんど見られない。

(5) 結束：材料はすべてわらであるが、筑後、糸島、京築地方は地干し後、もっぱら小束結束(15株程度)で、未処理のわらまたは、すぐりわら(下葉を除いたもの)が用いられる。また北九州、筑豊、宗像、福岡、筑後北部の架干し地帯でも同様わらが用いられ、刈取り後、当日のうちに小束に結束される。大束結束の場合、「むすで」(いいぜとも言う)が使われ、筑豊、宗像、北九州など県北部に多い。小束結束の場合でも簡易な「むすで」が用いられる場合がある(福岡の一部)。架干し地帯では刈取り後、当日に結束する。地干し、野積み地帯では乾燥(予乾約2～3日間)後に結束する。

(6) 乾燥法：地干し、地干し後野積み、架干しがある。1)稲架の構造は3本(または2本)の支柱を2～3m間隔にたて、その上に横木(または竹)をわたす。架干しの要領は稲束を半分に分けて架けるか、または3:1ぐらいに分けて、これを交互にかける。さらにその上に稲束を横にして穂と根本を交互に乗せるなり、稲束を半分に分けてさらに架けるなり、稲束を一定の向きに斜に置くなどの工夫をして稲架材料の節約をはかっている地帯が多い。2)地干しは県南地方の乾田地帯でもっぱら行なわれ、1握りまたは2握り程度を根本をあわせて田面に置き乾燥させる。半乾

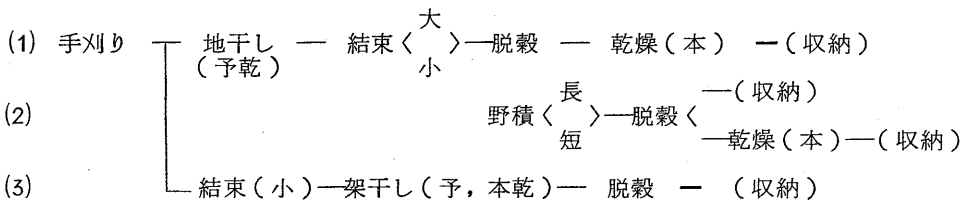
地帯では刈取り最後、または最初の株を高刈りにして、刈取った稲の根本をこの上に乗せて、稲わらや籾の乾燥を促している。3) 地干し後、野積みするのは北九州、宗像、筑豊など、もっぱら県北部に多いが、佐賀県に接した筑後西部にも見られる。野積みの期間は30日内外という長期のものと、1~10日という短期のものに分けられる。野積みの型は1) 穂を中心にして円形に積み上げる丸小積（「とうしゃく」とも言う）。2) 穂を中心にして十字型に積みあげる十字小積（四方小積）（筑後西部）、または米字小積（宗像）、3) 大束の10把または12把小積（福岡、筑豊）、4) 小束を山型または台型に積む方法（全般）、5) 稲束または竹で支柱を作り、穂先を上向にして小束約20~30束をよせる方法（糸島の大部分、福岡の一部）などがある。

(7) 運搬手段：圃場での稲束よせは、大束結束でしかも機械運搬が可能な乾田ではトレーラーや一輪車が主として用いられる。同じ乾田でも小束に結束する地帯では人力が主で、トレーラー、一輪車などは補助的な手段となっている。山間部では一輪車などのほか「おうこ」（竹または木の両端をとがらせた天秤棒）なども用いられる。半湿田ではもっぱら人力によっている。

(8) 脱穀：脱穀機はほとんど自脱（チェーン送り）で、組人員は3~4人である。時期は11月中、下旬がほとんどで、一部10月、12月にわたる場合がある。脱穀場所は圃場脱穀がほとんどであるが、県北部の北九州、宗像、筑豊の一部では屋内脱穀が行なわれる。山陰型気候による収穫時の天候不順が原因している。

3. 収穫法の作業類型とその地域性

福岡県における収穫の慣行作業体系を類別すると次のようである。



(1)は筑後、福岡、筑豊、京築、糸島の大部分、宗像、北九州の一部にまたがり、最も一般的にとられている作業体系である。(2)は県北部の北九州、宗像を中心に筑豊、京築、福岡、および糸島の一部にみられる丸小積、10、12抱小積その他、さらに筑後西部の一部にみられる四方小積などの野積み体系である。(3)は県北部または筑後東部の山間地帯に広がる架干しの体系である。

農業地帯区分	水田面積 (ha)	刈取時期	鎌	刈株数	刈方	置き方	刈株高さ	結束材料	結束大きさ	乾燥の方法	脱穀時期	場所	組人員	機械
北九州														
北九州市	68	10中下	刃	5	左	5. 15	低(後高)	むすで, 別わら	大小	地・架	10中下11上	圃(屋)	4~5	自(動)
中間市	8	10下	刃	5	右	5	低(初高)	むすで	大	野積・地干し	11上	圃	3~4	自
芦屋町	2	10下	刃	5	右	5	低(初高)	むすで	大	野積	11中下12上	屋	3~4	自
水巻町	5	10下11上	刃	5	右	10	低(初高)	むすで	大	地・野積	11中下12上	屋	3~4	自
岡垣町	11	10下11上	刃	5	右	10	低(初高)	むすで	大	地・野積	11上下	屋	3~4	自
遠賀町	14	10下11上	刃	5	右	10	低(初高)	むすで	大	野積・地	11上	圃, 屋	4	自
京 築														
行橋市	40	10下11上	刃	5	左	5	低(後高)	むすで, 別わら	小	地・野積	10下11上	圃	4	自(動)
豊前市	21	10中下11上	鋸・刃	4	左	4	低	別わら	小	地・架	10中下11上	圃	3~4	自(動)
苅田町	12	10中下11上	刃	5	左	5	低(後高)	むすで, 別わら	大小	地・野積	10下11上	圃	4	自
犀川町	17	10下11上	刃	5	左	5	低(後高)	別わら	小	地	11中	圃	3~4	自
勝山町	6	10下11上	刃	5	左	5	低(後高)	別わら	小	地	11中	圃	3~4	自
豊津町	7	10下11上	刃	5	左	5	低(後高)	別わら	小	地	11中	圃	3~4	自
椎田町	11	10中下11上	刃	4	左	4	低(後高)	別わら	小	地・野積(山型)	10中下11上	圃	3	自(動)
吉富町	1	10下11上	刃・鋸	4	左	4	低	別わら	小	地・架	10下11上	圃	2~3	自
築城町	15	10下11上	刃・鋸	4	左	4	低	別わら	小	地・架	10下11上	圃	3	自
新吉富村	5	10下11上	刃・鋸	4	左	4	低	別わら	小	地・架	10下11上	圃	2~3	自
大平村	8	10下11上	刃・鋸	4	左	4	低	別わら	小	地・架	10下11上	圃	3	自(動)
筑 豊														
直方市	21	10中下11上	刃・鋸	5	右・左	5	低(初高)	むすで, 別わら	大小	地・架	11中	圃	4	自

農業地帯区分	水田面積 (ha)	刈取時期		鎌	刈株数		刈方		刈株高さ	結束材料	結束大きさ	乾燥の方法	脱穀時期	場所	組人員	機械
		刈取時期	刈取時期		刈株数	刈方	刈株高さ	結束材料								
飯塚市	15	10上	10下	鋸, 刃	5	左	5	低(後高)	むすで	大	地(架)	11上	圃, 屋	4	自	
田川市	9	10中上11上		刃, 鋸	5	右	5	低(初高)	むすで	大	地	10下11中	圃	4	自(動)	
山田市	2	10下11上		鋸	6	左	6	高	むすで	大	地	10下11上	圃	4	自	
小竹町	4	10, 11上		刃	5	左	5	低(後高)	むすで	大	地, 野積	10下11中	圃	4	自	
鞍手町	15	10下11上		刃	5	右	5	低	別から	小, 大	架, 地	11中下	圃, 屋	3~4	自	
宮田町	14	10中下		刃	6	左	6	低(後高)	むすで, 別から	大, 小	地, 架	11	圃, 屋	3~4	自	
若宮町	17	10中下11上		刃	6	向	6	低(後高)	むすで	大	地, 野, 架	10下11中	屋	4	自	
桂川町	6	10中下11上		刃	5	右	5	低(初高)	むすで	大	地, 野(十把)	10下11上	圃	5	自	
稲築町	5	10中下11上		鋸	5	右	5	低(初高)	むすで	大	地	10中下11上	圃	4~5	自	
碓井町	5	10中下		刃, 鋸	6, 5	後	6, 5	低	むすで	大	地	10中下11上	圃, 屋	4~5	自	
嘉穂町	18	10中下11上		鋸	5	向	5	低	むすで	大	地	10下11上	圃	3~4	自	
筑穂町	14	10, 11上		鋸	6	向	6	低	むすで	大	地, 架	10, 11上	圃, 屋	3	自	
穂波町	11	10中下11上		刃	5	右	5	低(初高)	むすで	大	地	10下11上	圃	4~5	自	
庄内町	6	10中11上		鋸	5	右	5	低(初高)	むすで	大	地, 架	10中下11上	圃	4	自	
穎田町	5	10中11上		鋸	5	右	5	低(初高)	むすで	大	地, 架	10中下11上	圃	4	自	
香春町	10	10中11上		刃(鋸)	6	左	6	低, 低(初高)	むすで	大(小)	地, (架)	10中11上	圃(屋)	4~5	自	
添田町	14	10下11上		刃, 鋸	6	右	6	低	むすで, 別から	大(小)	地, (架)	10下11中	圃	5	自	
金田町	2	10中下11上		鋸, 刃	5	右	5	低(初高)	むすで	大	野積(20把)地	10下11上	圃	5	自	
糸田町	2	10中下11上		鋸, 刃	5	右	5	低(初高)	むすで	大	野積(#)地	10下11上	圃	5	自	
川崎町	6	10下11上		刃	5	右	5	低(初高)	むすで	大	地	10下11上	圃	6	自	
赤池町	4	10中下11上		刃, 鋸	5	右	5	低(初高)	むすで	大	野積(20把)地	10下11上	圃	5	自	

方城町	5	10中下11上	刃、鋸	5	右	5	低(初高)	むすで	大	野積(10把)地	10下11上	圃	5~6	自
大任町	4	10下11上	刃	6, 5	右	6, 5	低(初高)	むすで	大	地	10下11上	圃	5~6	自
赤村	5	10下	刃	6	左	6	低(初高)	むすで	大	地	10中	圃	5	自
宗像														
新宮町	3	10下11上	刃	5	右	5	低(初高)	別わら	小	架, 地	11上	圃屋	3~4	自
古賀町	11	10下11上	刃	5	左	5	低(後高)	むすで	大	地, 架, 野(十字)	10下11上中	屋圃	3~4	自
宗像町	21	10中下11上	刃	5	左	5	低(後高)	むすで, 別わら	大, 小	地, 架, 野	10下11上中下	屋圃	4	自
福岡町	6	10中下	刃	5, 6	左, 後	5, 6	低	むすで, 別わら	大, 小	地, 架	11下12上	屋圃	3~4	自(動)
津屋崎町	8	10中下	刃	5	左	5	低(後高)	むすで, 別わら	大, 少	地, 架	11下12上	屋圃	3~4	自(動)
玄海町	8	10下11上	刃	6	右	6	低(初高)	別わら	小	野積, 地	11上中	圃	3~4	自
大島村	—													
福岡														
福岡市	66	10下11上	刃	5	向	5	低	むすで(小束用)	小	地(架)	10下11上	圃	5	自(動)
筑紫野市	24	10中11上中	鋸	5	向	5	低	むすで	大	地	11上中	圃	3~4	自
春日市	3	10下11上	鋸	4	向	5	低	むすで(小)	小	地	11上中	圃	5	自
大野城市	6	10下11上	鋸	4	向	5	低	むすで(小)	小	地	11上中	圃	5	自
大宰府町	8	10下11上	鋸, 刃	8~10	向	8~10	低	むすで, 別わら	大, 小	地	10下11上	圃, 屋	3~4	自
那珂川町	10	10, 11上中	鋸, 刃	5~7	向	5~7	低	むすで(小大)	小, 大	地, 架	10中下11	圃, 屋	3~4	自
早良町	9	10, 11上中	刃, 鋸	6	向, 左	6	低	むすで	小, 大	地, 架	10中下11	圃	3~4	自(動)
宇美町	4	10下11上	刃	5	向	5	低	むすで(小)	小	地, 架, 野積	11中	圃	5	自(動)
篠栗町	7	10下11上	刃	5	向	10	低	むすで	大, 小	架, 野積	11上中	圃	4	自
志免町	5	10下11上	刃	6	向(左)	6	低	むすで	小	地(架)	11中下	圃	4	自

農業地帯区分	水田面積 (km ²)	刈取時期	鎌	刈回数	刈方	置き方	刈株高さ	結束材料	結束の大きさ	乾燥の方法	脱穀時期	場所		機械
												組	員	
須恵町	6	10下	刃	6~7	向	6~7	低	別わら	小	地, 架	10下11上	圃	4	自
久山町	5	10下11上	刃	6	向	10	低	別わら	小(大)	架(地)	11下12上	圃	4	自
粕屋町	8	10下11上	刃	6	向, 左	6	低	むすて	小	地, 架	11中下	圃	4	自(動)
糸島														
前原町	32	10下11上	刃, 鋸	5	左	10	低(後高) 低	むすて, 別わら	小	地, 架, 野	11中下12上	圃	2~3	自(動)
二丈町	13	10下11上	刃, 鋸	5	左	10	低(後高) 低	むすて, 別わら	小	地, 架, 野	11中下12上	圃	3	自(動)
志摩町	15	10下11上	刃, 鋸	5	左	10	低(後高) 低	むすて, 別わら	小	地, 架, 野	11中下12上	圃	3	自(動)
筑後北部														
久留米市	56	10下11上	鋸	4	左	4	低	わら	小	地	11上	圃	3~4	自
甘木市	37	11上	鋸	4	向	4	低	わら, むすて	小, 大	地, 架	10下11中	圃	4	自(動)
小郡市	26	10下11上	鋸	4	左	4	低	わら	小	地	11上	圃	3~4	自
杷木町	8	10下11上	鋸	4, 5	向	4, 5	低	わら, むすて	小, 大	地, 架	10下11上	圃	4	自
朝倉町	17	11上	鋸	5	向	5	低	わら	小	地	11上	圃	3~4	自
三輪町	9	11上	鋸	5	向	5	低	むすて	大	地	11中	圃	3~4	自
夜須町	11	11上	鋸	5	向	5	低	むすて	大	地	11中	圃	3~4	自
小石原村	2	10中下	鋸	6, 7	向	12, 14	低(高)	わら	小	架, 地	11上中	圃	5~6	自(動)
宝珠山村	2	10上	鋸	5, 6	向	10, 12	低	わら, むすて	小, 大	地, 架	10中下	圃	3~4	自(動)
吉井町	17	11上	鋸	4, 5	後	4, 5	低	わら	小	地	11上中	圃	3~4	自(動)
田主丸町	28	11上	鋸	4	向	4	低	わら	小	地	11上中	圃	3~4	自
浮羽町	19	10中下11上	鋸(刃)	4	向	4	低(高)	わら, むすて	小, 大	地, 架	10中下11中	圃	3~4	自(動)
北野町	15	10下11中	鋸	4, 5	向, 左	4, 5	低	わら	小	地	10中下11中	圃	4	自

大刀洗町	15	10下11上	鋸	4	左	4	低	わら	小	地	11上中	圃	3~4	自
筑後西部														
柳川市	35	11上	鋸	5	左	5	低	わら	小	地, 野積	11上中	圃	3~4	自
大川市	30	11上	鋸	5	左	5	低	わら(すぐり)	小	野積(4方小積)	11中	圃	4	自(動)
城島町	17	11上	鋸	5	左	5	低	わら	小	地	11上	圃	3	自
大木町	18	11上中	鋸	5	左	5	低	わら	小	地	11上中	圃	4	自
三潞町	14	11上	鋸	5	左	5	低	わら	小	地	11上	圃	4	自
大和町	19	10下11上	鋸	5	左	5	低	わら	小	地	11中	圃	5	自
三橋町	17	10下11上	鋸	5	左	5	低	わら	小	地	10下11上	圃	5	自
筑後東部														
大牟田市	15	10下11上	鋸	5	左	5	低	わら	小	地, 架	11上	圃	5	自
八女市	18	10下11上	鋸	5.4	左	5.4	低	わら	小	地	10下11上	圃	5	自
筑後市	28	11上	鋸	5	左	5	低	わら	小	地	11上中	圃	4	自
黒木町	15	10下11上	鋸	5.6	後左	5.6	低	わら, むすて	小大	地	11上	圃	4	自(動)
上陽町	4	10中下	鋸	5.6	左後	5.6	低	わら	小	地, 架	10下11上	圃	3~4	動, 自
立花町	12	10下11上	鋸	5	左	5	低	わら	小	地	10下11上	圃	3~4	自(動)
広川町	11	10下11上	鋸	4.5	右	4.5	低(高)	わら	小	地	10下11上	圃	3~4	自, 動
矢部村	5	10	鋸	5~7	左後	10~14	低	わら	小	架, 地	10下11上	圃, 屋	3~4	自, 動
星野村	5	10中	鋸	5	後	10	低	わら	小	架	10下	圃	4	自
瀬高町	26	10下11上	鋸	5	左	5	低	わら	小	地	11上	圃	3~4	自
山川町	4	10下11上	鋸	5	左	5	低	わら	小	地	11上	圃	4	自
高田町	21	10下11上	鋸	4.5	左	4.5	低	わら, むすて	小大	地, 野積(肥積)	10下11上	圃, 屋	5	自, 動